

2018(H30)シカ年度 エゾシカ個体数調整実施計画案(遺産地域内)

A. 知床岬地区

※第3期管理目標：知床岬先端部の約3.2km²(モニタリングユニット M00)における厳冬期の航空調査によるエゾシカ発見密度を 5~10 頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- ・H30 シカ年度は、H19 シカ年度より 12 シーズン目の捕獲。仕切柵整備からは 8 シーズン目。
- ・生息密度低下と生残個体のスマート化による捕獲効率低下に直面している。
- ・H29 シカ年度の捕獲終了時点の推定生息密度は、(M00 : 40 頭 or 先端旋回 49 頭) 12.4-15.2 頭/km²となり、第3期計画の管理目標は未達成。
- ・H29 シカ年度の厳冬期(3月12~13日)にヘリコプターを移動手段として実施した大人数(16名)の巻き狩りでは、4頭(前年同期34頭)を捕獲。4月20~25日に実施した少人数(5名)の忍び猟・待ち伏せ狙撃では3頭、5月12~13日の待ち伏せ狙撃(1名)で1頭(前年5月は5名の2泊3日で計3頭)を捕獲した。
- ・仕切柵内(柵よりも北側)の捕獲しやすいエリアでは、シカをほとんど発見できず。

2. 方針(案)

- ・仕切柵外(柵よりも南側)に主に分布するシカを、巻き狩りによって多数捕獲することは困難。そのため、仕切柵末端部のシカ道におけるくくりわなによる捕獲および少人数による待ち伏せ式(誘引)狙撃(3~4名、現地3~4泊程度)を厳冬期に1回、試行的に実施する。
 - ・羅臼側の沿岸に開放水面ができた時期(3月中旬以降?)に赤岩側の海岸に和船で上陸、北上して東西の仕切柵末端に待ち伏せ射手を配置し、柵北側の少人数の攪乱による巻き狩りを実施する(ヘリコプターの複数回往復によるシカ群の攪乱・南下逃走を回避)(5~6名、現地2~3泊程度)
 - ・流水開け後の少人数待ち伏せ狙撃(2~3名、現地2~3泊)を、4月下旬~5月上旬(海食台地上にイネ科草本が芽吹き始めた時期)に1回程度実施する。
 - ・文吉湾側の仕切柵末端の袋小路部(文吉コラル)の改修工事を夏期に実施し、自動捕獲装置を利用した囲いわな式捕獲も、前述の厳冬期の現地滞在期間中に実施できるようにする。
- ※H31シカ年度以降の知床岬における厳冬期の捕獲については、毎冬実施する航空カウント調査の結果(岬東側のシカの分布状況)や他の時期・手法(赤岩上陸捕獲・カプト岩船舶捕獲など?)による捕獲成績をふまえて、隔年で実施することも検討する。

※捕獲目標頭数合計 : 20 頭

【H29 シカ年度実績 および 第3期管理目標等を踏まえ設定】

算出根拠：32 頭/3.23km² = 9.907 頭/km²

(49-8)×1.2 -32 = 17.2

3. 捕獲事業内容(案) (知床岬地区)

①. 流水期 へり捕獲 (小規模隊 3~4 泊) 1回 (新パターン)

- 期間： 2~3 月に 1 回(航空カウント調査終了後)。3~4 泊。
- 人員規模： 3~4 人程度
- 実施方法： 発酵餌(デントコーンサイレージ or 牧草のラップサイレージ)を用いた待ち伏せ式誘引狙撃、くくりわな、文吉コラルを改修した囲いわな
- 個別の課題： へりによる牧草ロールの吊り下げ輸送・投下

②. 流水期 船捕獲 (中規模隊 2~3 泊) 1回 (新パターン)

- 期間： 3 月中旬以降に 1 回。2~3 泊。
- 人員規模： 5~6 人程度
- 実施方法： 赤岩側の海岸線に上陸、北上して射手を配置。仕切柵利用巻き狩り・狙撃
- 個別の課題： 羅臼側の沿岸に航行可能な開放水面ができるか、赤岩の最近廃業した番屋を拠点として借りられるか

③. 海明け後 船捕獲 (小規模隊 2~3 泊) 1回 (H27-28 シカ年度に近いパターン)

- 期間： 4 月下旬~5 月上旬に 1 回。2~3 泊程度
- 人員規模： 2~3 人程度
- 実施方法： 草原上狙撃、林縁・森林内待ち伏せ狙撃、林内忍び猟
- 個別の課題： 登山者や漁業者に対する周知や安全対策、ヒグマ対策

* 死体回収は、最終日または後日船により、日帰りで実施。

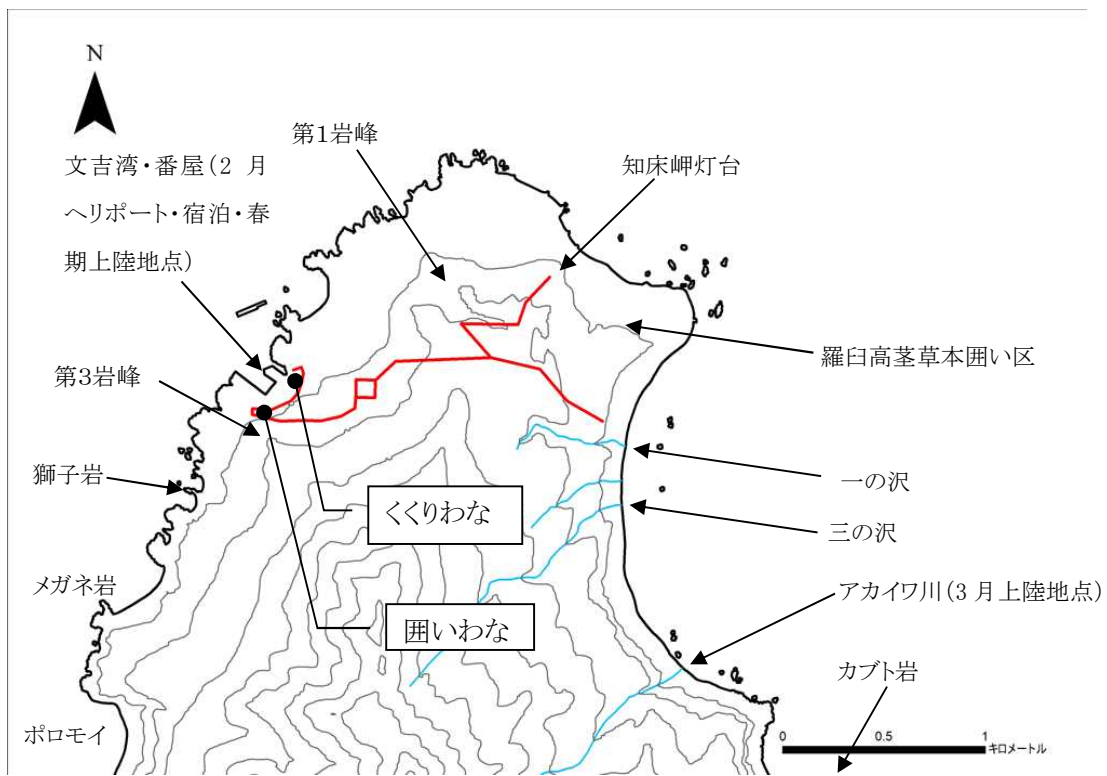


図 6-2-1-1. 知床岬先端部の地図 (赤線が捕獲補助用の仕切柵).

B. ルサー相泊地区

※第3期管理目標:モニタリングユニット R13 の約 24.68km²における航空調査によるエゾシカ発見密度を 5 頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- ・H29 シカ年度は相泊囲いわな（4年目）で8頭、箱わな（1年目）で26頭、くくりわな（2年目）で44頭、合計78頭を捕獲。災害復旧工事のため、道道沿いの流し猟式SSは実施できず。
- ・くくりわな捕獲個体がキツネによる被食を受けやすい。止め刺し後の死体の一時保管施設（冷凍庫）の確保。
- ・H29 シカ年度の航空カウント数はR13で48頭（1.9頭/km²）。第3期管理目標の 5 頭/km²以下を暫定的に達成済み（R13 = 航空カウント調査区 U12 南部 + U13 + U13s = 24.68 km²）。

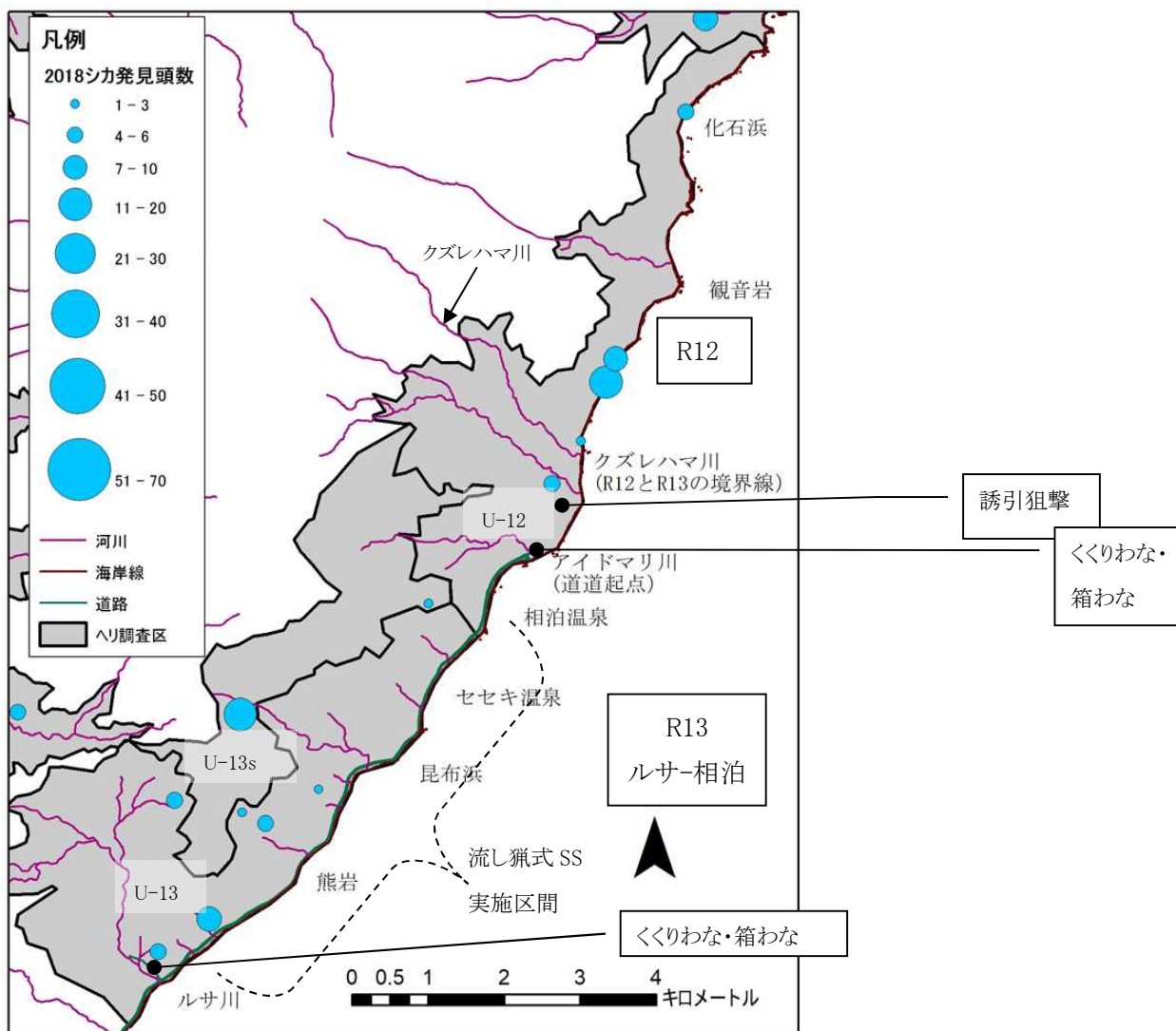


図 6-2-1-2. 2018 年航空カウント調査時のエゾシカ発見位置と H30 シカ年度シカ捕獲実施予定箇所。

2. 方針（案）

- ・ルサ、昆布浜、相泊付近（崩浜南部）で、くくりわなと少数の小型箱わなを運用。
- ・崩浜南部（カモイウンベ川付近）で誘引狙撃を実施。
- ・流し猟式シャープシューティング（以下、流し猟式SS）を道路復旧工事次第で再開。
- ・囲いわなの再設置は見送り。

※相泊以北の船舶利用捕獲は、知床岬の厳冬期へり捕獲と交代で隔年、またはそれ以上の間隔を開けて実施する方針（シカのスレ防止などのため）とし、H30 シカ年度には実施しない。船舶利用捕獲を実施する年には、カブト岩（知床岬の特定管理地区）やペキンノ鼻（エゾシカA地区）での捕獲実施も検討する。

※捕獲目標頭数合計：75頭

3. 捕獲事業内容（案）

①. くくりわな・小型箱わな

- 期間： 12月～ 箱わな設置（積雪が少ないうちに運搬）
1月初旬～ 餌づけ開始、わなへの馴致。
1月中旬～3月末まで捕獲
- 実施候補地：相泊～カモイウンベ川間の崩浜南部、昆布浜付近、ルサ川左岸周辺（いずれも再設置）。
- 個別の課題：警戒心の高まりに配慮した配置、部外者による攪乱・事故の防止、道道通行止時の対応、止め刺し後の死体の一時保管施設の整備。
- 捕獲目標頭数：30頭（H29シカ年度くくりわな捕獲実績の7割）。

②. 誘引狙撃（待ち伏せ式）

- 期間： 2月上旬？～ 馴致・餌づけ
2月下旬～4月上旬、週1回程度、計6回程度捕獲を実施。
- 実施候補地：崩浜南部（カモイウンベ川付近）
- 個別の課題：希少猛禽類関係の事前調整、死体の一時保管施設の整備
- 捕獲目標頭数：15頭。

③. 流し猟式SS

- 期間： 3月中旬～ 馴致・餌づけ
（シカが高標高へ移動中の2月～3月上旬は、餌づけも実施しない）
3月下旬～4月末、週1回程度、計4回程度捕獲を実施。
- 実施候補地：道道知床公園羅臼線沿い（北浜～相泊間 約7km：従来の実施区間）
- 個別の課題：道路法面工事との調整、漁業者等への周知。死体の一時保管施設の整備。
- 捕獲目標頭数：30頭（H27シカ年度実績 or 2018年4月日中カウント最大値=52頭）の6割。

C. 幌別-岩尾別地区

※第3期管理目標:モニタリングユニット S04 の約 29.08km²における航空調査による
エゾシカ発見密度を 5 頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- ・H29 シカ年度は幌別河口囲いわな（5年目）で6頭、幌別箱わな（2年目）で30頭、岩尾別川河口の流し猟式SS・誘引狙撃（5年目）で22頭、岩尾別大型仕切柵（5年目）で8頭、岩尾別箱わな（2年目）で23頭、岩尾別台地誘引狙撃（2年目）で7頭、百平米運動地作業道SS（3回目）で9頭、合計105頭（5月17日時点）を捕獲。
- ・H29 シカ年度の航空カウント数（モニタリングユニット S04 = 航空カウント調査区 U04 西部 + U05 + U06 = 29.08 km²）は56頭。1.9頭/km²となり、第3期管理目標を暫定的に達成済み。ただし局所的に高密度のエリアが残る。
- ・特に同地区西部の幌別（U-06：岩尾別川～幌別川左岸）は観光地（フレペの滝、プユニ岬等）を含むため、大規模な銃捕獲の実施は困難。囲いわな設置適地もほとんど残っていない。
- ・冬眠明けのヒグマによる攪乱等により、捕獲適期のピーク（3月下旬～4月初旬）に十分な捕獲を実施できていない。箱わなへの警戒心が上昇、メス成獣の捕獲比率が低下。

岩尾別

- ・岩尾別川河口右岸の台地上に、おそらく 20-30 頭程度の群れが残存。
- ・シカのスマート化が更に進行しており、餌づけによる馴化で車両に慣らすことはもはや困難。待ち伏せ式の（誘引）狙撃が主体となっている。

幌別

- ・幌別川河口囲いわな（5年目）の捕獲効率が引き続き低下。箱わなにも捕獲効率の低下兆候あり（特にメス成獣）。一方、2017年3月のプユニ岬周辺の追い出しカウントでは、わずか0.75km²の狭い範囲に141頭のシカが確認された。針葉樹の被覆が多いため、航空カウント調査によるシカの発見率は低い、依然高密度の越冬地となっていると推測される。

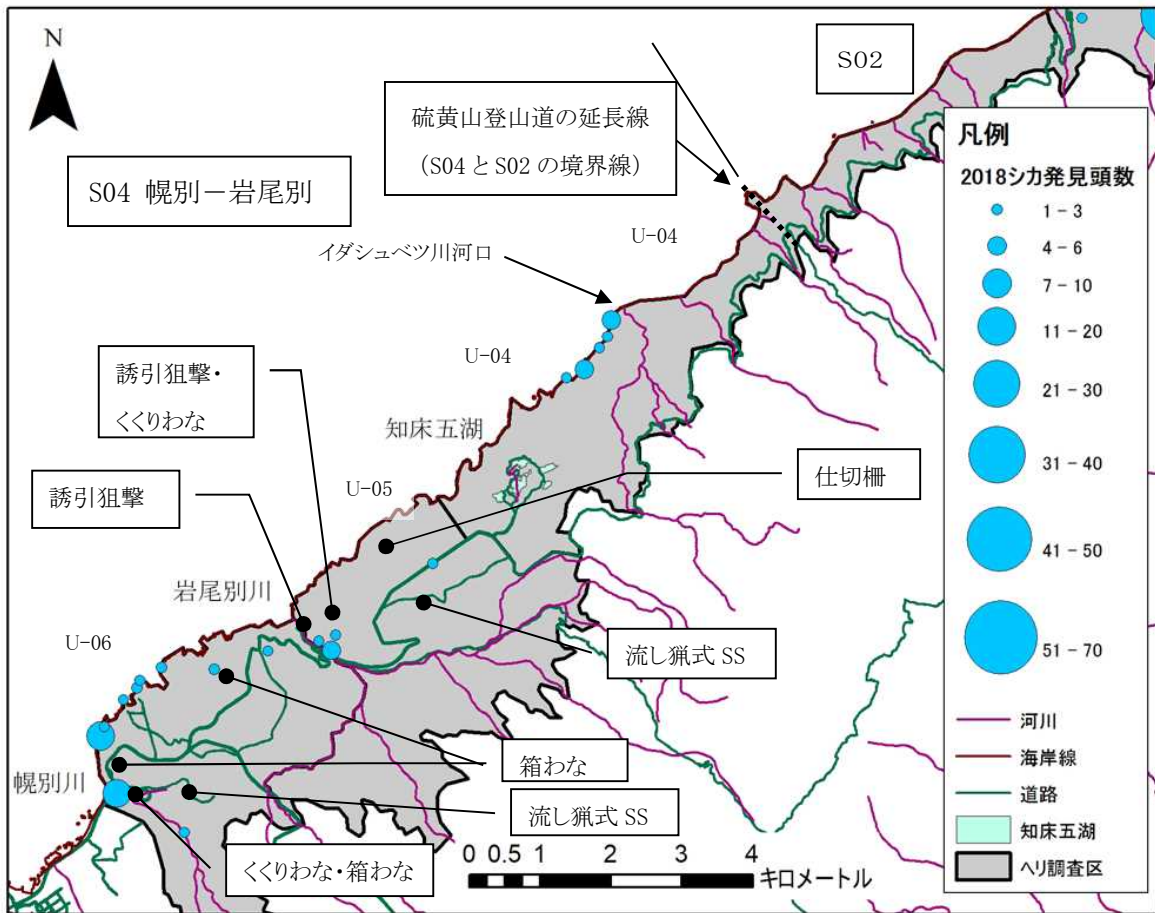


図 6-2-1-3. 2018 年航空調査時のエゾシカ発見位置と H30 シカ年度の捕獲実施予定箇所.

2. 方針 (案)

岩尾別

- ・岩尾別川河口～右岸台地上に集結する群れの捕獲にひきつづき重点を置く。右岸台地上（崖上）の林内・林縁等に設置したくくりわなと、誘引狙撃等の組み合わせによる捕獲を行う。

幌別

- ・幌別河口では左岸への囲いわなの再設置を見送り、右岸の橋下に小型箱わなを設置する。
- ・ブユニ岬（見晴橋付近）周辺の林内に、箱わなに加えて少数のくくりわなを設置する。

※捕獲目標頭数合計： 1 2 5 頭（H29 シカ年度実績等を参考）

3. 捕獲事業内容（案）

①仕切柵を用いた大型囲いわな式捕獲（既設）

- 期間： 1～3月に餌付け・捕獲
- 実施候補地： 岩尾別地区（海岸側ササ地）
- 仕様等： 大面積のササ地を仕切柵で囲い、囲いわなのようにして捕獲。落とし扉は蹴り糸で落下するように加工。メール送信機能付自動カメラを設置し、捕獲を補助。捕獲個体は原則銃による止め刺し後、死体で搬出する。
- 個別の課題： 2月（厳冬期）の追い込み捕獲への活用。
- 捕獲目標頭数： 5頭（H29シカ年度実績の約6割）

②くくりわな（6年ぶり再設置・積雪期）

- 期間： 1月上旬に設置、1～3月に捕獲（岩尾別台地上では手法④の誘引狙撃と並行して捕獲実施）
- 実施候補地： 岩尾別川右岸側崖上（台地上）の林内・林縁、幌別へアピンカーブ内側など
- 個別の課題： 設置するくくりわなの数、わなの設置位置とアクセスルートの最適化、わな巡回・止め刺し・搬出の省力化、わなの移設頻度、移設距離
- 捕獲目標頭数 35頭（H23シカ年度くくりわな捕獲実績の約6割）

③小型箱わな（再設置・積雪期）

- 期間： 12月に設置、1～3月に餌付け・捕獲
- 実施候補地： 幌別台地東部（ポロピナイ付近）の林内・林縁、プユニ岬（見晴橋）付近の針葉樹林内、幌別川河口右岸側の幌別橋の下：橋脚の陰
- 個別の課題： 箱わなの設置位置とアクセスルートの最適化、わな巡回・搬出の省力化
- 捕獲目標頭数 50頭（H29シカ年度箱わな＋囲いわな捕獲実績の約8割）

④待ち伏せ式誘引狙撃（積雪期）

- 期間： 1～3月下旬（1月から餌付け、2月から週1回程度捕獲）
- 実施候補地： 岩尾別川河口のふ化場付近、岩尾別右岸側崖上（台地上）の林内・林縁
- 個別の課題： 長時間の待ち伏せによる射手の肉体的・精神的負担の軽減
- 捕獲目標頭数： 20頭（H29年度冬期実績の約7割）

⑤待ち伏せ式誘引狙撃（残雪期）

- 期間： 3月下旬～4月19日（3月から餌付け、週1回程度捕獲）
- 実施候補地： 岩尾別台地上
- 個別の課題： 長時間の待ち伏せによる射手の肉体的・精神的負担の軽減、冬期通行止め区間の道道に立ち入るカメラマン等への周知。
- 捕獲目標頭数： 5頭（H30年度春期実績の5倍、融雪が例年どおりならば捕獲見込みあり？）

⑥運動地流し猟式 SS（・待ち伏せ狙撃・忍び狙撃）（無積雪期）

- 期間： 5～6 月（週 1 回程度捕獲）
- 実施候補地： 幌別・岩尾別台地上、しれとこ 100 平方メートル運動地内の作業道沿い
- 要素： 餌づけ誘引なし、スマートディアの追加発生を可能な範囲で回避するよう配慮、車両を必ずしも利用しない（待ち伏せ狙撃への臨機応変な切替）、道路入口封鎖
- 個別の課題： 低密度かつスマート化したシカ群の捕獲手法としての有効性、どこまで少数群への発砲・全滅にこだわるか。
- 捕獲目標頭数： 10 頭（H30 年度春期実績）

4. H30 シカ年度以降の検討課題

- ・低密度かつスマート化したシカ群のより効率的な捕獲の進め方。最終手段の厳寒期の巻き狩り（仕切柵活用追い込み捕獲）の実施のタイミングなど。
- ・フレペの滝～ポロピナイ間（幌別台地上）の海側崖沿い草原地帯で越冬している群れの捕獲の進め方。
- ・5 月に道路法面の牧草に誘引されているエゾシカは、供用中の国道・道道を通行止めにした流し猟式 SS（早朝・夜間？）を実施すると効率的な捕獲が可能と推測される（2018 年 5 月の状況）。

表 6-2-1-1. H30 (2018) シカ年度 遺産地域内におけるエゾシカ個体数調整事業 (案)

| | | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | |
|--|---------------------------------------|----------------------------|----------------------|----------------------------|----------------|----------------------------------|-------------------|----------------------------|-------------------------|---------|--|
| | | | シカ季節移動 | | ← 流水期 積雪十分に | → | ← 猛禽繁殖期 | | シカ季節移動 | | |
| | | | | ← 岩尾別～五湖間道道冬期閉鎖 11月下旬～4月下旬 | | | | | | | |
| モニタリング | | ↔ スポットライトセンサス (秋期集中) | | | | ↔ 航空カウント調査 (遺産地域内) | | ↔ スポットライトセンサス (春期集中) | | | |
| A 知床 岬 | 1. 流水期 ヘリ捕獲 小規模・宿泊1回 | | | | | ↔ 航空カウント後、 宿泊ヘリ捕獲1回 | ↔ 羅臼側 船上陸捕獲 | | ↔ 死体回収 | | |
| | 2. 流水期 船上陸捕獲 中規模・宿泊1回 | | | | | | | | | | |
| | 3. 海明け後 船捕獲 小規模・宿泊1～2回 | | | | | | | ↔ 芽吹き時期・宿泊船捕獲1～2回 | | | |
| B ルサ ・ 相 泊 地 区 | 1. くくりわな・小型箱わな (再設置) | | | ↔ 箱ワナ設置 | ↔ 馴致・餌付け | ↔ 餌付け+捕獲 | ↔ ワナ撤去 | | | | |
| | 2. 誘引狙撃(待ち伏せ式) (崩浜南部 新規) | | | | | ↔ 馴致・餌付け | ↔ 餌付け+捕獲 | | | | |
| | 3. 流し猟式SS (北浜～相泊: 道道知床公園羅臼線) | | ← 道路管理者等 関係機関との交渉 | | | | ↔ 馴致・餌付け | ↔ 餌付け+捕獲 | ← シカ 道路法面に集中 | | |
| C 幌 別 ・ 岩 尾 別 地 区 | 1. 仕切柵を用いた大型囲いわな式 捕獲 (岩尾別台地上) | | | | | ↔ 餌付け+ 捕獲 | ← シカ海食台地縁、道路法面に集中 | | | | |
| | 2. くくりわな (岩尾別台地、幌別ヘアピン内 再設置) | | | | ↔ ワナ設置 | ↔ 餌付け+ 捕獲 ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了 | ↔ ワナ撤去 | | | | |
| | 3. 小型箱わな (ポロピナイ周辺・幌別ブユニ岬) | | | ↔ ワナ設置 | | ↔ 餌付け + 捕獲 (適宜移設) | ↔ ワナ撤去 | | | | |
| | 4-5. 誘引狙撃 (岩尾別ふ化場通路、岩尾別台地上) | | | | ↔ 馴致・餌付け | ↔ 餌付け+捕獲 | ↔ 馴致・餌付け | ↔ 餌付け+捕獲 | → ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了(ふ化場) | | |
| | 5. 無積雪期流し猟式SS・忍び狙撃・待伏狙撃 (100平米運動地作業道) | | | | | | | | | ↔ 捕獲 | |